

【児童アンケート 7月・と12月の比較】

★3「あまりあてはまらない」、4「あてはまらない」、※「よくわからない」の否定的な意見が
 15%以上(30人学級で4~5名ほど)→本校としては「早急な改善課題」として捉える
 ※その中でも7月より否定的意見が増えた▼、減った(改善)△で表示

〔12月〕★No.6(新しい学習を考えるときは、前学習をもとにしていますか)→▼、★No.10(家で自分で計画を立てて勉強をしていますか)→△、★No.11(あなたの学級では、学校生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見を生かして解決方法を決めていると思えますか)→△、No.16(好き嫌いをせず、給食の準備・食べ方・後片付けの約束ごとは、きちんと守っていますか)→▼、No.17(進んで運動したり、外遊びをしていますか)→△、No.20(子ども会の行事や地域の清掃活動などにすすんで参加していますか)→▼、No.21(お家の人に、授業参観やPTA活動に来てもらうように話していますか)→△

※No.6とNo.10に関しては、児童の「前に習ったことの活用」と「自学自習(自分で目標を立て家庭学習する)」の定着の具合を表しているが、自学自習に関しては少しずつ改善の兆しが見られる。No.16に関しては「好き・嫌い」に注目して回答しているようで、食育の充実が必要である。No.17に関しては高学年と低学年による差があり、高学年の児童の二極化(体を動かす子と動かさない子)の改善が必要である。No.20は子ども会の衰退や地域行事の周知不足等も考えられる。児童・保護者への発信の在り方の改善が必要である。

【教師アンケート 12月実施→児童の評価との比較】

●教師と児童の評価比較 ※児童の12月評価の否定的評価の高い項目(15%以上)をピックアップ
 (12月肯定的評価1「よくあてはまる」・2「あてはまる」の割合で比較する)

評価項目	教師の肯定的評価	児童の肯定的評価
教師No.8 学習規律・意欲を持つ学習者の育成(児童No.4)	88.9%	89.3%
教師No.9 評価を児童に伝えその結果を受け改善を図る	88.9%	89.6%
教師No.10→授業のめあての明確化(児童No.5)	92.6%	
教師;対象質問無し(児童No.6)		76.5%
児童のNo.4・No.5は教師も児童も回答に大幅なずれはない。しかし落ち込みの多い児童No.6の質問の教師に対する質問がない。次年度以降改善に取りかかる手始めに教師用アンケートへの質問追加が課題。(「既習事項の活用を意識した授業作り」の項目が必須)		
教師No.12 自学自習の視点を含めた学習(児童No.10)	44.4%	81.8%
従来の「課題を与える家庭学習」からの脱却に教師が苦慮している。逆に児童の意識や保護者の声かけが先を行っている現状が見られる。学校全体での発達段階を考慮した「自学自習」を推進する必要がある。		
教師No.16 食育の充実(児童No.16)	88.9%	81.4%
教師の「手応え」と児童の「手応え」に多少のズレがある。児童の評価を定期的に受け取るシステムを作り、改善をしていく必要がある。		
教師No.17 進んで運動(児童No.17)	88.9%	83.9%
教師の「手応え」と児童の「手応え」に多少のズレはあるものの、先述したようにこの項目は7月より改善が見られる。今後も継続した取組をしていく。		

教師No.21 地域に開かれた学校 (児童No.20)	74.1%	58.8%
教師No.21 PTA に開かれた学校 (児童No.21)	74.1%	79.0%

教師の「手応え」においてどの項目よりも改善する必要があるが、「地域に開かれた学校」という面では児童とのズレが大きい。児童を通じた PTA への広報のみならず、地域と児童・保護者をつなぐような広報も在り方を模索する必要がある。

【保護者アンケート 12月実施】

保護者アンケートに関しては、1・2 の肯定的な意見と 3・4 の否定的な意見+5「よくわからない(伝わっていない)」の二つに分けた。

1「あてはまる」.2「どちらかというにあてはまる」.3「どちらかというにあてはまらない」.4「あてはまらない」.5「よくわからない」

児童；★否定的 15%以上

保護者；下線は否定的が 15%以上の項目

単位「%」

	項 目	1.2→肯定的	3.4.5→否定的	児童否定的
1	学校は、学校教育目標や重点目標を分かりやすく伝えている。	84.8	15.2	※質問に無し
2	学校は、先生や友達と安心・安全な生活ができるように取り組んでいる。	91.6	8.4	
3	学校は、清掃活動や栽培活動などきれいな学校づくりに取り組んでいる。	91.0	9.0	
<u>4</u>	<u>学校は、子どもたちの学習の意欲を高める指導を積極的に取り組んでいる。</u>	<u>75.8</u>	<u>24.2</u>	No.4 10.7
<u>5</u>	<u>学校は、学力を身につけさせるように工夫した授業を積極的に行っている。</u>	<u>75.0</u>	<u>25.0</u>	No.5 10.4
<u>6</u>	<u>学校は、宿題を工夫し、クリアタイムを活用した学力向上に努めている。</u>	<u>75.8</u>	<u>24.2</u>	No.9(ク)11.7 No.10(宿)★18.3
<u>7</u>	<u>学校は、教育活動の中で、子どもたちに感謝や思いやりの心を育てるような指導を積極的に取り組んでいる。</u>	<u>78.8</u>	<u>21.2</u>	No.13 6.8
<u>8</u>	<u>学校は、あいさつやきちんとした言葉遣いができるような指導に積極的に取り組んでいる。</u>	<u>74.2</u>	<u>25.8</u>	No.14 5.9
9	学校は、子どもたちに学校生活のルールを身に付けるよう適切な指導をしている。	86.4	13.6	
<u>10</u>	<u>学校は、食育や健康に関する指導に積極的に取り組んでいる。</u>	<u>75.0</u>	<u>25.0</u>	No.16 ★18.6
<u>11</u>	<u>学校は、体力向上に対する指導に積極的に取り組んでいる。</u>	<u>65.9</u>	<u>34.1</u>	No.17 ★16.1
12	学校は、学校だより等で積極的に学校教育の様子を伝えている。	94.7	5.3	
13	学校は、交通事故や防災、不審者対応の安全対策等の指導に積極的に取り組んでいる。	88.6	11.4	
<u>14</u>	<u>学校は、地域に根ざした活動を通して、特色ある学校づくりに積極的に取り組んでいる。</u>	<u>72.7</u>	<u>27.3</u>	※児童質問と内容が異なる
15	学校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	80.3	19.7	

No.6・No.10・No.11 に関しては、保護者・児童共々否定的な意見が高い→急ぎの改善必要

No.4・No.5 においては、保護者の理解を得るための教師の「授業力の向上」が必須事項。多忙な先生方への自己研鑽を積むための時間の確保も必須事項だと考え、業務の改善も図る必要がある。

否定的な意見といっても、「よくわからない」が多数を占める項目もある。「よくわからない」が 10%～14.9%の項目はNo.4・5・6・7・8・10 である。「よくわからない」が 15%以上の項目はNo.11・14・15 である。内容の改善よりもまずは積極的な「発信」とその方法を検討する必要がある。